

テモ其ノ形跡ヲ認メ得ラルヘント考フルニ付本官ニ依頼シ
在滿蒙ノ帝國領事ニ訓令シ右ニ関スル報告ヲ徴スヘキ旨ノ
電訓ニ接シタリトテ配慮方申出ノ次第モアリタルニ付貴官
ニ於テ内密御調査ノ上何分ノ義報告相成ル様致シタシ在滿
各領事ヘ本官ノ訓令トシテ転電アリタシ
大臣ヘ電報シタリ

七三六 十二月二十六日 在安東吉田領事ヨリ
加藤外務大臣宛

独国陰謀ノ有無ニ関シ査報ノ件

機密公信第八〇号 (十二月三十日接受)

大正三年十二月廿六日

在安東

領事 吉 田 茂 (印)

外務大臣男爵 加藤高明 殿

露国大使ヨリ申出ノ次第有之南滿方面ニ於ケル独乙国陰謀
内密調査方奉天宛第一二二号御訓電ノ趣落合総領事ヨリ転
電相成敬承致候当館管内ニ於テハ目下右様ノ形跡毫モ無之
候間御承知相成度右訓電ハ固ヨリ当館ニハ無関係ノ義ニ有
之哉ニ被存候ヘトモ一応御回答ニ及候 敬具

七三九 十月十七日 在ホノルル有田総領事
代理ヨリ
加藤外務大臣宛 (電報)

ホノルル入港ノ独艦「ガイエル」ノ動靜ヲ出雲
ニ通報方ニ関シ請訓ノ件

第二六号

往電第二三三号ニ関シ Geier ハ十月十七日午前九時第十機
橋ニ引移リ修理ニ着手セリ修理ノ箇所ハ機関部ナル由尚同
艦カ阿三日当港ニ滞在スル模様ナルコト等ノ情報ヲ伝フル
為十月十八日午前十時当港出帆ノ筈ナル春洋ヲシテ航海中
出雲ヘ打電セシメテハ如何ニヤ右差支ナケレハ呼出方並用
語等打返シ返電アリタシ
在米大使ニ電報シタリ

七四〇 十月十八日 加藤外務大臣ヨリ
在ホノルル有田総領事代理宛
(電報)

「ガイエル」ノ修理ヲ遅延セシムル様運動方軍

令部ヨリ依頼ノ件

第二七号 (極秘)

肥前ハ航程ヲ急ギ廿三日迄ニ貴港外ニ到着ノ見込ナルニ付
夫レ迄 Geier ノ修理ヲ遅延セシムル様運動ノ余地無キヤ

七三七 十二月二十八日 在奉天落合総領事ヨリ
加藤外務大臣宛 (電報)

新民屯北部ノ治安状況報告ノ件

第二一四号

新民府発十二月二十八日 第一二号

貴電第一二二号ニ関シ目下当地北部ニハ稀ニ馬賊ノ出没ヲ
見ルコトアルモ御申越ノ如キ関係系統ヲ有スルモノナシ尚
引続キ注意中在支公使宛電報シタリ

五 独国軍艦「ガイエル」一件

七三八 十月十五日 在ホノルル有田総領事
代理ヨリ
加藤外務大臣宛 (電報)

独国砲艦ホノルル入港ニ付報告ノ件

第一七号 (至急)

独逸国砲艦ラシキモノ一隻十月十五日午前六時頃「ホノル
ル」ヘ入港午前八時頃檢疫棧橋繫留艦名取調中十月十六日
午後三時頃入港ノ筈ナル春洋丸ヘノ注意方ニ付テハ目下
「エゼント」ト協議中在米大使北米沿岸各領事官及在里馬
領事ヘ電報ス

若シアラハ貴官ニ於テ然ルヘキ手段ヲ講セラレタキ旨軍令
部ヨリ依頼アリ右ハ不可能ノコトトハ思ハル、モ何等御見
込アラハ然ル可ク措置アリタシ

七四一 十月十八日 加藤外務大臣ヨリ
在ホノルル有田総領事代理宛
(電報)

「ガイエル」ノ動靜ヲ出雲ヘ通報方ニ関シ回訓

ノ件

第二八号

貴電第二六号ニ関シ出雲ニ打電ノ必要ナシ但シ今後 Geier
ノ行動ハ軍令部ニ於テ貴電接受ノ都度直接出雲宛電報スル
筈ナルカ貴官ヨリモ桑港領事經由同艦ヘ電報アリ度旨同部
ヨリ依頼シ来リタルニ付右様御取計アレ

七四二 十月十八日 在ホノルル有田総領事代理ヨリ
加藤外務大臣宛 (電報)

ホノルル碇泊中ノ「ガイエル」ノ出港ヲ遅延セ

シムル手段ニ付回報ノ件

第二七号 (大至急 極秘)

貴電第二七号ニ関シテハ運動ノ余地ナキモノト思考セラル

但シ当港碇泊中ノ浅間丸ヲシテ十月十九日午後当地ヲ出帆セシメ其後二十四時間ヲ經過シ春洋ヲ出帆セシムルトキハ十月二十一日午後迄ハ「ガイエル」ヲ遅延セシムルコトヲ得ヘシ若シ右ノ方法ヲ執ルトスレハ浅間ニ対シテハ本官ヨリ十九日出港スル様談合スヘキモ春洋ニ対シテハ十月十八日午前四時迄ニ本店ヨリ命令ノ達スル様御取計相成タシ

七四三 十月十九日 在ホノルル有田総領事
代理ヨリ
加藤外務大臣宛(電報)

独艦「ガイエル」ニ関シ軍艦肥前ト通信連絡ノ
方法ニ付請訓ノ件

第三〇号(極秘)

「ガイエル」ハ或ハ肥前到着迄出港セサルヤモ難計若シ其際肥前ニシテ姿ヲ港外近ク現ハス時ハ「ガイエル」ハ出港ヲ敢テセス当港ニ於テ武装ヲ解除スルニ至ルナキヲ保シ難キニ付肥前並ニ鳥取丸ハ当港沖何ト哩カノ地点ニ止マリ一般ノ注意ヲ避ケ当館ヨリ同地点迄「ボート」ヲ派シテ通信聯絡ヲ計ルコトト致シタシ若シ右御採用ナラハ更ニ会合ノ地点ヲ定メ御回示アリタシ尚当館ニ於テ雇入レ得ル「ボート」

三、本件ハ肥前艦長ニ通牒セラレタシ

七四五 十月二十二日 在ホノルル有田総領事
代理ヨリ
加藤外務大臣宛(電報)

「ガイエル」ニ関シ肥前艦長ト打合ノ結果同艦
修繕所要日数等ヲ税関長ニ問合ノ予定ナル旨報
告ノ件

第三八号(至急)

往電第三五号ニ関シ本官ハ十月二十一日午後肥前艦長ヲ「ホノルル」沖ニ訪ヒ諸般ノ打合ヲナシタリ同艦長ハ米国官憲ノ「ガイエル」ニ対スル処置如何ヲ一刻モ速ニ確カメシコトヲ希望セラレタルニ付十月二十一日夜中立ニ関スル事務ニ付責任ヲ有スル税関長ヲ訪ヒテ修繕ノ程度並之ニ要スル日数ニ付承知シタキ旨公然質問ヲナス積ナリシモ午後九時迄ニハ税関長ノ所在ヲ知ルコトヲ得サリシニ付十月二十二日午前十時ヲ期シ税関長ヲ訪ヒテ以上ノ質問ヲ試ムル積ナリ右ニ付何等御差支アレハ折返シ何分ノ義返電アリタシ

ト」ハ「ガソリン」漁船ニシテ平常百乃至二百哩沖迄出漁スルモノナリ

七四四 十月二十一日 加藤外務大臣ヨリ
在ホノルル有田総領事代理宛
(電報)

「ガイエル」ニ関スル我対策電訓ノ件

第三三号(極秘)

貴電第三〇号ニ関シ海軍省ヨリ左ノ通り取計方依頼アリタルニ付然ルヘク措置セラルヘシ

一、「ガイエル」ニシテ肥前到着前尚出港セサルニ於テハ寧ロ肥前ノ艦影ヲ認メシメ敵ヲ威圧シテ武装解除セシムルヲ確実ナリト認ムル故其方針ヲ以テ諸般ノ手段ヲ講セラレタシ

二、「ガイエル」ガ尚ホ在港スルト否トニ拘ラス肥前トノ通信ハ領海外ニ於テスルコト必要ナルモ貴館派出ノ「ボート」トノ会合地点ヲ当方ヨリ肥前ニ指示スルコトハ且下不可能ナリ故ニ肥前ハ遅クトモ布哇日附二十二日(22/10)ホノル、沖合ニ到着スルモノトシテ「ボート」ヲ派シ沖合ニ於テ会合ニ努メラレタシ

七四六 十月二十二日 在ホノルル有田総領事
代理ヨリ
加藤外務大臣宛(電報)

「ガイエル」ノ修繕所要日数等ニ関シ税関長言
明ヲ避ケン旨報告ノ件

第四〇号

往電第三八号發送後間モナク(十月二十一日午後十時三十分)税関長ヨリ本官ニ面会ヲ求メ来レルニ付上陸中ナリシ田口少佐ト共ニ訪問シタル処夜間「サーチ、ライト」ヲ照スコト並ニ艦載「ボート」ヲ以テ上陸スルコトハ見合ハサレタシトノコトヲ極メテ穩カニ申出タリ(尤モ「サーチ、ライト」ヲ照シタルコト又照サントシタルコトナシ)当方ニ於テハ其ノ序ヲ以テ往電第三八号ノ質問ヲ艦長ノ名ニ於テ田口少佐ヨリナシタル処税関長ハ右ノ質問ニ答フルコトハ中立違反ト思考スル旨答弁シ尚十分法律家ノ研究ヲ請ヒタル上若シ税関長ノ意見ニシテ誤リナレハ之ヲ訂正スヘシト申添ヘタリ

右ノ如キ事情ナル処 Geier 修理ハ独逸側ニ於テ急キ居ラサルコト往電第三三号所載ノ如キノミナラス米国側ニ於テモ稍々放任ニ過キ遷延ニ遷延ヲ重ネシメツツアル如キ嫌アリ十月二十一日ノ夕刊英字新聞ノ如キハ修繕ニ要スヘキ機

械ノ一部ハ之ヲ大陸ヨリ取寄セサルヘカラサルヤモ知レサレハ完成迄ニハ尚數多ノ時日ヲ要スヘシトサヘ報シ居ル位ナルニ就テハ当地税関長ノ答弁ノ如キ此際之ヲ待ツコトナク直接米国中央政府ニ其説明ヲ求ムル手段ニ出ルコト必要ニアラサルカト思考セラル

在米大使ヘ電報シタリ

七四七 十月二十二日 在ホノルル有田総領事代理ヨリ
加藤外務大臣宛 (電報)

「ガイエル」ノ修繕日數等ニ関スル質問ニ答フルハ中立違反ナル旨「ホノルル」税関長談話ノ件

第四一號

往電第四〇号ニ関シ十月二十二日午前税関長ヲ訪問シタルニ独逸国軍艦修繕ニ関スル質問ニ答フルコトハ中立違反ナリトノ廿一日夜ノ答弁ニ誤ナキコトヲ明言シタリ尚ホ十月廿一日夜肥前ヨリノ「ポート」等力港口近ク迄往復シ居リタル由ヲ告ゲ(監視必要上肥前ヨリ夜陰ニ乗シ水雷艇ヲ港口近ク派遣シタルコト等ヲ指スナラン)其中立違反ナルコ

ルニ至レリ依テ本件ハ速ニ交渉ヲ華盛頓ニ移スヲ必要ト認ム領事モ同意見ナリ通信聯絡ノ方法ニ関シテハ領事ヨリ委細ハ外務大臣ヘ報告ス之ヲ速ニ移牒スヘク依頼シ置ケリ此電報ハ「ガイエル」ニ関スル第三報ナリ

七四九 十月二十三日 在ホノルル有田総領事代理ヨリ
加藤外務大臣宛 (電報)

「ガイエル」ノ監視及軍艦肥前トノ通信聯絡ノ方法ニ付報告ノ件

第四三號

十月二十二日午後肥前艦長ヲ訪問シ往電第四一號ノ次第ヲ語リタルニ当地税関長ノ意見ニシテ右ノ如クナレハ地方的ニ満足ノ解決ヲ見ルコト能ハサルノミナラス監視ハ殆ント不可能トナリ甚タ我ニ不利ナル結果ヲ来スヘキニ付一方中央政府ニ就キテ修繕ノ程度ヲ明カニシ且急速ニ其修理ヲ了ヘシムル手段ヲ執ラルル様請訓スル外致方ナク之ト同時ニ不取敢左記ノ方法ニ依リ監視並通信聯絡ヲ為スコトニ打合セ置キタリ

(一) ガソリン漁船二隻ヲ雇入レ昼間ハ甲船ハ領事館用向ヲ聴キタル上午前十時定錨場ヲ発シ肥前ニ赴キ帰米シ乙船

トヲ注意スル所アリタルニ付本官ハ右ノ如キ事實ハ全ク之ヲ承知セサル旨答弁シ置キタリ

右ノ次第二付將來軍艦ヨリノ監視ハ自然不充分ナル虞アルノミナラス肥前トノ交通聯絡ハ極メテ困難ナルベシ

十月二十二日午前肥前艦長ヲ問ヒ熟議ヲ遂ケ更ニ電稟スヘシ

在米大使ニ電報ス

七四八 十月二十二日 在ホノルル有田総領事代理ヨリ
加藤外務大臣宛 (電報)

「ガイエル」ニ関スル交渉ヲ華盛頓ニ移スベキ旨ノ肥前艦長ヨリ海軍大臣軍令部長宛電報伝達ノ件

第四二號

肥前艦長ヨリ海軍大臣軍令部長宛
二十二日朝領事税関長ヲ訪問セシトキ税関長ハ昨夜本職ノ「ガイエル」ノ工事ニ関スル質問ニ対スル返答ハ詮議ノ結果正確ナルコトヲ明言シタリ当地ニ於ケル米国官憲ハ次第ニ微細ノ点ニ至ル迄我動作ニ容喙シ陸上トノ通信モ困難ナ

ハ午前六時定錨場発直チニ肥前ヨリ約一哩ヲ距ル地点ニ至リ漁業ニ従事シ居リ午後五時帰来ノコト但シ右ハ肥前ヨリノ不時ノ用務ヲ弁スルカ為ナリ

夜間ハ甲船ハ館員一名ヲ乗セ指定位置ニテ独逸国軍艦ヲ監視シ乙船ハ休業ス

(二) 馬車一台ヲ雇入レ館員一名ヲ乗セテ日没ヨリ翌朝五時迄独逸国軍艦附近ニ在リテ陸上ヨリ監視シ居リ独逸国軍艦ノ行動ヲ起スヲ見ルトキハ火箭ヲ打揚クルコト

右ハ十分注意シテ之ヲ行フコト勿論ナルモ米国官憲ノ氣附ク所トナリ或ハ抗議ニ会フコトナキヲ保シ難シト懸念セラ

ル、ニ付一日モ早ク根本問題ノ解決ヲ期スルコト緊要ナリト思考セラル尚本件ニ付今後本官ノ執ルヘキ方針至急電報アリタシ

在米大使ヘ電報シタリ

七五〇 十月二十四日 在ホノルル有田総領事代理宛
加藤外務大臣ヨリ
(電報)

「ガイエル」監視方法ニ付訓令ノ件

第三八號

貴電第四三號ニ関シ「ガイエル」監視方ニ付テハ可成人目

ヲ惹カサル方法ニ依ラル、コト極メテ必要ナルニ付館員ヲシテ見張りニ従事セシムルコトハ見合セラレ館員外ノ信用アル者ヲ用ヒラルヘク又火打揚等ノコトハ穩カナラサルニ付見合セラルヘシ何レ海軍省ト協議ノ上更ニ訓電スヘキモ不取敢右電報ス

尚ホ交戦国軍艦力中立港ニ入りテ破損ヲ修理スルコトハ或程度マテハ是認セラレ居ルノミナラス(中立国ノ權利義務ニ関スル海牙条約第十七条)其ノ修理ノ程度如何ヲ中立国ニ対シ弁明ヲ求ムルコトハ權利トシテ交戦国ニ認メラレ居ラサルニ付為念申添ユ

七五一 十月二十四日 在ホノルル有田総領事代理ヨリ
加藤外務大臣宛(電報)

軍艦肥前「ホノルル」沖ニ於テ独国帆船ヲ拿捕ノ件

第四八号

往電第四七号ニ関シ十月廿四日午後七時肥前艦長ヨリ漁船ニ託送シ来レル公信大要左ノ如シ

十月廿四日午前七時岸ヲ距ル五「マイル」ノ地点ニ於テ

為スコトハ出来難カルヘキ儀ト思考セラルルノミナラス船員中ノ東印度人支那人等ニ対シテハ釈放後ノ送還費用モ当方ニテ負担セサルヘカラルヤト存セラルルニ付人数モ多カラサルヲ幸ヒ暫ク之ヲ肥前若クハ鳥取丸ニ抑留シ置キ縦シ釈放スルトスルモ「ガイエル」処分後入港ノ上ニテ之ヲ為スコトハ如何ニヤト思考セラル至急何分ノ御電訓アリタシ

附 記

十月二十四日午後九時三十分拿捕船ノ撃沈ヲ実行シタルモノノ如シ

七五三 十月二十五日 在ホノルル有田総領事代理ヨリ
加藤外務大臣宛(電報)

軍艦肥前トノ通信連絡困難トナレル旨報告ノ件

第五〇号

往電第四七号後段ニ関シ税関監視船ノ監視ハ益々嚴重ニシテ十月二十五日朝今後ノ通信聯絡方法等打合セノ為メ肥前ニ特派シタル日本人ハ上艦シタル儘夜ニ入ルモ帰来ス

機関ヲ有スル独逸国帆船ヲ拿捕セリ国籍独逸国船名 Seolys 出発地 Jaluit 島出発時九月九日仕向港「ホノルル」積載貨物並ニ商品ナシ開戦ハ Jaluit 島ニ於テ聞キタリ船長 Carl Friedrichsen 持主 Jaluit 島貿易会社右ニ対シテ捕獲ノ旨宣言シタルニ船長ハ直チニ承諾シタリ在米国大使ニ電報シタリ

七五二 十月二十四日 在ホノルル有田総領事代理ヨリ
加藤外務大臣宛(電報)

ホノルル沖ニテ拿捕ノ独国帆船及船員ノ処置ニ関シ請訓ノ件

第四九号

往電第四八号ニ関シ肥前艦長ヨリ拿捕船並ニ船員ノ処分方ニ付協議ノ為本官ノ来艦ヲ望ム旨申来リタルモ最近米国官憲ノ監視益々嚴重トナリ来リタル際ナレハ之ヲ差控ヘ居レリ

上陸シ居リタル田口少佐ノ意見ニテハ船舶ハ標的トシテ之ヲ撃沈シ船員ハ之ヲ解放シテハ如何ヤトノコトナリシモ肥前ガ入港セサル限り船員ヲ当地ニ於テ解放スルノ手續ヲ

ルノ機会ナシ將又暗号無線電信發送ニ就テハ交渉ノ結果從來訊文添付ヲ要セサリシニ十月廿五日朝以來之ヲ添付セサレハ受付ケサルコトトナリタルヲ以テ肥前ニ傍受セシムル為メ暗号無線電信ヲ桑港ニ打電スルコトモ不可能トナリタリ此等ノ為メ肥前トノ交通ハ今ヤ殆ント絶望ノ姿トナレリ在米大使ヘ電報シタリ

七五四 十月二十六日 加藤外務大臣ヨリ
在ホノルル有田総領事代理宛(電報)

独艦「ガイエル」ニ関スル米国官憲トノ交渉担当、同艦ノ監視方法等ニ付訓令ノ件

第四三号

往電第三八号ニ関シ海軍大臣ヨリ肥前艦長ヘ左記要領ノ電訓ヲ發セリ(一)独艦ニ関スル米国官憲トノ交渉ハ総ヘテ總領事代理ニ一任スルコト(二)監視及總領事代理トノ通信聯絡ニ付テハ出来得ル限り人目ヲ惹カサルコトニ努メ中立違反ノ嫌ヲ生セサルコトニ注意スルコト(三)本艦ハ勿論短艇等ヲ領海内ニ入レサルコト

就テハ貴官ニ於テモ右ト矛盾スルノ行動ニ出テサル様御注

意アルヘク且中立違反ヲ構成セサル範圍内ニ於テ出来得ル限りノ手段ヲ尽シ独艦修理ノ程度及其期間ニ関スル情報ヲ入手スルニ勉メ之ヲ電報セラルヘシ

七五五 十月二十六日 在ホノルル有田総領事代理ヨリ
加藤外務大臣宛(電報)

独艦「ガイエル」監視ニ関シ総領事代理及肥前艦長「ホノルル」税関長ト談合ノ件

第五一号

十月廿六日早朝肥前艦長ハ税関長ノ許可ヲ得田口少佐ト共ニ上陸シ来リ本官ト共ニ税関長ヲ訪ヒ鎮守府司令官同席ノ上ニテ左ノ事項ヲ談合シタリ

- (一) 肥前ノ短艇カ三哩以内ニ立入り巡邏セサル様艦長ヨリ更ニ訓令スルコト
- (二) 肥前ノ短艇ヲ港内ニ入レサルコト但シ必要ノ場合ニハ税関監視船迄通信ヲ送ルコトヲ得
- (三) 日本法制上ノ交渉ハ領事ノ手ヲ經サルヘカラサルコトヲ説明シタル結果軍艦ト領事館トノ間ニ封書往復ヲ為シ得ルヤ否ヤニ付税関長ヨリ中央政府ニ請訓スルコト

付同様ノ注意ヲ非公式ニ英國大使ニ申入タリト答ヘタリ本使ハ幾許ノ距離ヲ以テ hovering トスルヤヲ試問シタルニ此点ハ一定セサルモ私見ニテハ八乃至十哩ヲ隔ツル時ハ十分ナラント答ヘタリ

又本使ハ独逸軍艦「ガイエル」ノ「ホノルル」ニ碇泊シ居ルコトハ我船舶航路ヲ脅カスモノニシテ同艦既ニ久シク碇泊シ居ルハ如何ナル理由ナリヤ又何時迄碇泊スルモノナリヤト問ヒタルニ代理ハ右ハ修繕ノ為ニテ若シ機械ヲ取寄スルコト必要ナレハ幾分長時日ヲ要スヘキモ日数ノコトハ未タ確報ニ接シ居ラサルノミナラス軍事上ノ報道ニ亘ルニ付明言シ難キ旨ヲ答ヘタルニ付本使ハ右ハ軍事上ノ報道ニアラス同航路ニ当ル我商船保護ノ為必要ナル次第ヲ述ヘタルニ尚取調ノ上出来得ル限り御知ラセ致スヘント答ヘタリ同日英國大使ニ尋ネタルニ同大使ハ前記注意ヲ受ケタルニ付本國政府ニ電報シ其結果英國軍艦ハ成ルヘク人目ヲ惹カサル距離ニ於テ紐育港前ヲ巡邏スヘキ様命令ヲ受ケタル趣ナリ

有田済ミ

尚「ガイエル」ガ港内ヨリ肥前ヲ奇襲スルカ如キコトナキ様税関長ヲシテ為念証言セシメタリ
在米大使ヘ電報シタリ

七五六 十月二十七日 在米國珍田大使ヨリ
加藤外務大臣宛(電報)

軍艦肥前ノ「ホノルル」沖ニ於ケル巡邏監視ニ付國務長官代理ヨリ申出ノ件

第三七六号

十月二十六日他ノ用向キニテ國務長官代理ヲ訪問ノ節代理ハ本使ニ対シ全然非公式ニ本使ニ注意ヲ促シタシト前置キシテ帝國軍艦肥前カ「ホノルル」港ヨリ明カニ望見シ得ヘキ丁度三哩外ニ巡邏監視(hovering)シ居ルコトハ同港ノ通商ニ差響ヲ及ホス義ニ付故障ナシトセサル旨(Objectionable)ヲ述ヘタルニ付本使ハ同艦ノ遊弋ハ我商船保護ノ為メ必要ナル事由並ニ領海外ニアル以上ハ毫モ不当ニアラサルヘキ旨弁解シタルニ代理ハ肥前ノ「ホノルル」港外ニ巡邏スル理由ハ十分ニ之ヲ諒トスルモ此点ハ普仏戰爭中ニモ米國ノ強硬ニ主張シタル所ナリ尚一ヶ月前英國軍艦ハ紐育港前ヲ巡邏監視シテ同港ノ貿易ヲ妨クル恐アリシニ

七五七 十月二十七日 加藤外務大臣ヨリ
在米國珍田大使宛(電報)

米國政府ノ「ガイエル」ニ対スル処置ニ関シ同政府ニ問合方訓令ノ件

第二九二号

独逸國軍艦 Geier 十月十五日午前ホノルル入港十七日午前ヨリ修理ニ著手シ今以テ出港ノ模様ナキハ有田總領事代理ヨリノ電報ニテ御承知ノ通ナル処其修理ノ性質並ニ程度ニ関シ帝國政府ハ強テ之ヲ知ラントスルモノニアラズ全然米國政府ノ真摯ナル中立維持ニ信賴スル次第ナルモ入港以來既ニ十余日ヲ過クルモ尚修理進捗ノ模様ナク徒ラ二時日ヲ経過シ居ルカ如キハ海戰ノ場合ニ於ケル中立國ノ權利義務ニ関スル海牙條約第十七條ノ精神ニ非サルカ如ク思考セラルルノミナラス該艦カ「ホノルル」ニ滯泊シ居ル間ハ該艦ノ為メニハ毫末ノ危險モ無之ニ反シ日米間ヲ往復スル帝國商船ハ絶エス危險ト不安トヲ感セサルヲ得サル次第ナルニ付貴官ハ至急米國当局者ニ面会ノ上懇談のニ右ノ趣旨ヲ申入レラレ米國政府ハ「ガイエル」ヲ如何ニ処置スル意嚮ナルヤヲ突止メ返電アリタシ

米國政府ヨリ独艦出港ノ予定日、武裝解除其他參考トナル

ヘキ事項ヲ聞込マレタルトキハ本大臣宛ト同時ニ「ホノルル」総領事代理ニモ電報セラルヘシ
以上參考トシテ有田ニ転電アレ

七五八 十月二十七日 在ホノルル有田総領事代理ヨリ
加藤外務大臣宛(電報)

「ホノルル」沖ニテ拿捕ノ独帆船撃沈及乗組員ヲ独商船ニ送致ノ旨報告ノ件

第五二号

貴電第四五号ニ関シ肥前ハ軍事行動ノ必要上捕獲船員ヲ艦内ニ留置キ難キ事情アリタル趣ヲ以テ十月廿四日夜帆船ヲ撃沈スルト同時ニ船員(独逸人三人支那人一人南洋人九人)ヲ「ホノルル」港外在泊中ノ独逸国商船 Locksunn ニ送リタリ右ノ次第ハ交通杜絶ノ為メ十月廿六日艦長上陸ノ際初メテ之ヲ承知シタリ然ルニ右ノ処分ヲナスニ方リ軍艦ヨリハ税関監視船ニ其旨通告シタルノミニテ移民局方面ノ交渉ヲ為シ置カサリシ為メ問題ハ移民法第十八条違反ト云フコトトナル模様ナルニ付本官ハ直ニ移民局方面ニ内密ニ運動シ移民官ヨリハ目下中央政府ニ請訓中ナリ十月廿七

多少非難ノ余地有之ヘキカ将来ノ問題發生シタル場合請訓ノ暇ナキコトアルヘケレハ予メ何分ノ義御電訓ヲ請フ

七六〇 十月二十八日 在米田珍田大使ヨリ代理ヨリ
加藤外務大臣宛(電報)

米田國務長官代理ヨリ軍艦肥前ノ「ホノルル」

ノ行動ニ関シ注意方申越ノ件

第三七七号

往電第三七六号國務長官代理ハ十月廿七日附半公信ヲ以テ本使ト会見後同代理ノ得タル報告ニ依レハ肥前ノ小蒸汽ハ十月二十三日、二十四日及二十五日ノ夜燈火ヲ点セスシテ「ホノルル」港内ヲ巡邏シ肥前艦長ハ同港ノ中立ヲ遵守セサル傾向アリト思ハルル趣ナリ依テ代理ハ本件ニ関シ帝國政府ニ正式ニ通知スルコトヲ避ケ且事態重大ニ陥ルヲ避ケタキ希望ヲ以テ肥前ノ不穩当ナル右行動ニ対シ本使ノ注意ヲ促ス旨ヲ申来レリ貴電第二九二号ハ往電第三七六号ト行違ヒタルモノト思考スルモ右御電訓ノ趣ハ早速代理ヘ申入ル様致スヘシ
有田済ミ

日中ニハ何トカ無事解決ヲ見ルコトト信シタルヲ以テ其上ニテ電報スル積ニテ報告延引シタリ解決就キ次第更ニ電報スヘシ在米大使ヘ電報シタリ

七五九 十月二十七日 在ホノルル有田総領事代理ヨリ
加藤外務大臣宛(電報)

独帆船乗組員措置無事解決報告並今後捕獲船舶ノ乗組員ニ関スル措置ニ付請訓ノ件

第五三号

往電第五二号ニ関シ支那人ヲ除クノ外ハ成規ノ手續ヲナシ入国セルカ故ニ差支ナキコトナリ支那人送還ニ関シテハ本官ヨリ東洋汽船会社代理店ニ交渉シ十月廿七日出帆ノ天洋丸ニテ横浜迄無賃乗船セシムルコトトシ無事解決シタリ右在米大使ニ電報シタリ但シ将来拿捕船員ヲ当地ニ於テ解放セントスル問題ヲ生シタル場合ニ再ヒ移民条例違反問題ヲ繰返スカ如キハ面白カラス解放方法トシテハ船員ヲ拿捕船ノ「ボート」ニ分乗セシメ三湮以外ノ一地点ニ解放シ彼等ヲシテ随意ニ米田領土若クハ領海内ノ汽船ニ乗リ移ラシムルコトハ最モ簡便ナリト思考セラルルモ人道上等ヨリ

七六一 十月二十八日 在ホノルル有田総領事代理ヨリ
加藤外務大臣宛(電報)

「ガイエル」ノ士官桑港ヘ向ケ出発ノ噂報告ノ件

第五五号

十月二十八日当地発「コレア」号ニテ Geier ノ士官二名桑港ヘ向ケ出発シタリトノ噂アリ目的不明ナルモ或ハ同艦修理ニ関スル用務ヲ帶ベルモノニアラサルカ右ハ相当信スヘキ方面ヨリ出タルモノト認メラルルニ付事実ノ有無取調中ナル処若シ事実トスルモ当地ニ於テハ之レニ対シ何等ノ処置ヲ執ルノ必要ナキヤ為念在米大使在桑港總領事代理ヘ電報シタリ

七六二 十月三十日 加藤外務大臣ヨリ代理ヨリ
在米田珍田大使宛(電報)

「ガイエル」修理並同艦士官桑港向出発ニ関シ米田政府ノ意向突止方訓令ノ件

第二九八号

往電第二九二号ニ関シ米田政府ノ意嚮ハ追テ貴官ヨリ電報アルヘキガ「ガイエル」ノ修理ハ海戦ノ場合ニ於ケル中立

国ノ權利義務ニ関スル海牙条約第十七条ニヨリ戦闘力ヲ増加スルコト能ハサルハ勿論航海ノ安全ニ缺クヘカラサル程度ヲ超ユルヲ得サルニ付船底ノ掃除ヲ為シテ速力増加ヲ計ルカ如キモ既ニ右程度ヲ超ユルモノナルニ付米國政府ニ於テモ其辺ニ相当ノ考慮ヲ加ヘ居ルコトト信ス尚本件ニ關聯シ貴官ヘモ電報アリタル有田來電第五五号「ガイエル」ノ士官二名桑港ヘ向ケ出發ノ件ハ若シ事實トセハ該士官ニヨリテ帝國ノ軍事上ノ情報ヲ敵ニ伝フルヲ拒クコト能ハサル次第ニテ米國政府力現ニ肥前ト陸上ノ交通ニ相当制限ヲ加ヘ其他無線電信使用制限等ノ主義ト相容レサルノミナラス「ガイエル」ニシテ若シ武裝解除ト決定セハ此等士官ハ相当ノ手続ニ服スヘキモノナルニ付中立國ニ於テハ差當リ右等士官ヲ其艦ヨリ遠ク離レシメサル義務アリト思ハル就テハ若シ既ニ出發シ桑港ニ向ヒタルコト事實ナルニ於テハ米國政府ハ之ヲ抑留スルカ又ハ上陸ヲ禁止シテ直ニ「ガイエル」ニ帰還セシムルノ手続ヲ執ルヲ至當ト認ムル処右ニ關シテモ米國政府ノ意嚮併セテ御突止アリタシ

同日公文ヲ以テ右貴電ト同様ノ趣旨ニ基キ「ガイエル」ガ米國港内ニ引續キ碇泊シ居ルコトニ對シ抗議ヲ提出シ布哇知事ニ同艦ヲ抑留センコトヲ要求スルト同時ニ現ニ「ホノル」碇泊中ノ独逸國汽船 Locksun ハ千噸ノ石炭ヲ積載シ居リ独逸國軍艦ニ石炭供給ノ目的ヲ以テ派遣セラレタルモノニシテ「ガイエル」ト同航「ホノル」ヘ入港セルモノノ如ク同船ハ其ノ行先キヲ伴ハリ居ルノミナラズ交戰國軍艦ニ石炭ヲ供給シタル証跡アルヲ以テ國際法ノ規定及一九一四年九月十九日ノ合衆國規則ニ拠リ之ヲ審問スル為米國政府ニ於テ同船ヲ抑留スベキ理由アル旨ヲ申入レタリ十月二十九日三浦參事官往訪ノ節代理ハ「ガイエル」ノ破損ハ当初海軍技師ヲシテ檢分セシメタル処余程重大ナルモノニシテ且「ホノル」ニ職工少ナキ為其ノ修繕未タ終了セサルモ進行シツアル旨ヲ語レリ序ヲ以テ同參事官ハ肥前艦長ノ來電ニ拠レハ同艦長ハ哨艇ヲシテ「ホノル」港内ヲ巡邏セシメタル事實ヲ否認シ居ルコト但シ夜間三海里外ヲ哨戒中位地測定困難ノ為一時領水内ニ偏位シタルコトハ事實ト認メタル旨ヲ代理ニ弁解シ置キタリ

七六三 十月三十日 加藤外務大臣ヨリ 在米國珍田大使宛 (電報)

肥前艦長其哨艇ホノル港内巡邏ノコトナキ旨等弁明ノ件

第二九九号

肥前艦長ヨリ二十八日發海軍大臣宛電報左ノ通り御參考マデ

珍田大使ヨリ當總領事宛、本艦哨艇港内巡邏ノ趣ニテ注意アリシモ、事實哨艇ヲシテ港内ヲ巡邏セシメサルコトハ當地米官憲モ承知ノ筈、但夜間、三海里外ヲ哨戒中、位置測定困難ノ為一時的領水内ニ偏位シタルコトアリシハ事實ナリ猶一層注意ヲ払ヒツツアリ

七六四 十月三十日 在米國珍田大使ヨリ 加藤外務大臣宛 (電報)

在米英國大使ヨリ米國政府ニ對シ「ガイエル」及独船「ロクスン」ノ抑留ヲ要求ノ旨報告ノ件

第三八三号

貴電第二九二号及第二九六号ニ關シ御訓令ノ趣ハ十月二十九日半公信ニ認メ國務長官代理ニ申入レタリ又英國大使ハ

七六五 十月三十日 在ホノル有田總領事代理ヨリ 加藤外務大臣宛 (電報)

「ガイエル」士官ノ桑港向ケ出發ノ噂事實ナル旨報告ノ件

第五九号

往電ノ報道ヲ齎シタル邦字新聞記者ヲシテ更ニ秘密ニ移民局ヲ取調ヘタル処十月二十六日ニ Egon Pretzel 及 Water Sourbeck ノ二名十月二十七日ニ Fred Pahrish 及 Paul Streibel ノ二名ニ對シ同局ヨリ Alien Certificate ヲ發行シ居リ執レモ「ガイエル」乗組員ニシテ新嘉坡ヨリ來リ桑港ニ向フ者ナル事ヲ明記シアルコトヲ發見シタリ「コレア」号代理店タル独逸國人商会備付船客名簿ニハ右四名ノ名前記載シアラザルモ同代理店ヨリ税関ニ提出シタル分ニハ明ニ之ヲ記載シアリ前ノ二名ハ一等船客後ノ二名ハ二等船客ナルモノノ如シ年齡其他人相モ分明シ居レトモ之ヲ略ス

在米大使在桑港總領事代理ヘ電報シタリ

註 Sourbeck 中尉 Pretzel 中尉ハ「ガイエル」乗員ニ相違ナキ旨海軍省副官ヨリ十一月三日官房機密第一二三七号ニテ小池政務局長宛通知アリ

七六六 十月三十日 在米國珍田大使ヨリ
加藤外務大臣宛(電報)

一定期限内ニ「ガイエル」修理不可能ナルトキ
ハ同艦ヲ抑留スヘキ旨米國政府ヨリ在米國独逸
大使ニ通告ノ件

第三八六号

往電第三八三号半公信申入ニ対シ十月三十日接受シタル国
務長官代理ノ返翰ニ依レハ目下「ホノルル」ニ修繕中ノ
「ガイエル」ニ関シ米國政府ハ同艦修繕ノ為一定ノ期限ヲ
限定スル所存ナル旨並右所定期限内ニ修繕完了スルコト不
能ナル場合ニハ米國ハ現在ノ戦争中同艦ヲ抑留スルコトヲ
主張スルノ已ムヲ得サル旨ヲ米國駐劄独逸大使ニ通告シ
又右同一ノ次第ヲ「ガイエル」艦長ニ通告スヘキ様米國官
憲ニ訓令シタル趣ナリ
有田濟ミ

七六七 十一月一日 在米國珍田大使ヨリ
加藤外務大臣宛(電報)

「ガイエル」士官桑港向ケ出発ニ関シ米國政府
ニ申入及同艦修理期限問合ノ件

第三九〇号

会谈ニ係ル hovering 云々ニ関シ日本國政府ヨリ何等來
示ニテモアリシヤト問ヒタルニ付本使ハ之ニ対シ未タ何等
來示ナシ思フニ帝國政府ニ於テモ尚熟考中ナルヘシト告ケ
更ニ全然私見トシテ Kearsaus 対 Alabama 事件ニ関スル
事例ヲ引用シ米國政府自ラ三海里以外ニ関シ中立國ヲ以
テ何等云々サルヘキ理由ナシトノ立場ヲ取ラレタルニア
ラスヤト述ヘタルニ同官ハ然リ乍去其後普仏戦争ノ際
hovering ニ就テハ米國政府ハ強硬ナル立場ヲ取りタリ即
チ此ノ後者ノ方ヲ以テ米國政府現在ノ態度ト見做スヘキモ
ノナリ尤モ其頗ル難問題ナルハ自分モ十分認ムル所ニシテ
過般ノ話ハ此問題ニ付テハ米國ノ言論囂シカルヘクスノ如
キハ米國政府ニ於テ甚タ好マサル所ナルノミナラス日本國
政府ニ於テモ亦憚ハサル所ナルヘシト察シ故ラニ単ニ實際
問題トシテ考量ヲ煩ハシ度趣旨ニ出テタルモノナリト語リ
タリ其態度極メテ穩便ニシテ國際法上ノ主義問題ニハ論及
ヲ避ケタリ尚右談話中本使ハ本件ニ付テハ地形ヲモ十分考
量ニ加ヘサルヘカラス例ヘハ紐育沖合ト「ホノルル」沖合
トハ海岸線極メテ大ナル差違アルノミナラス後者ハ現ニ三
海里以外余リ離ルレバ錨地サヘ無シト云ハル、位ナリ更ニ
本件ノ場合ハ現ニ港内ニ在泊ノ敵國軍艦ヲ監視スル必要ヨ

貴電第二九八号ニ関シ為念直ニ在「ホノルル」総領事代理
ニ其後内探ノ結果ニ付電問シタルニ貴大臣宛第五九号ノ通
回電アリタルニ付十月三十一日國務長官代理ヲ往訪貴電後
段ノ趣旨ニ依リ申入ヲ為シタル処同官ハ頗ル驚キタル模様
ニテ之ニ関シテハ未タ何等報告ニ接セサルニ付至急取調ノ
上何分ノ回答スベキ旨ヲ約シタリ尚往電第三八六号中ノ
「ガイエル」修理ニ対シ一定ノ期限ヲ定ムヘシトノ点ニ付
修理期間ニ関シ同官ガ前回面会ノ節「出来得ル限り御話ス
ヘシ」云々ト述ヘタル行懸ヲ利用シ再ヒ試問シタルニ同官
ハ其後此点ニ付熟考ノ結果修理期間ヲ通スルハ軍事上ノ情
報ヲ与フルニ齊シトノ見解ニ帰シタルヲ以テ乍遺憾右質問
ニ応答スル能ハスト答ヘタリ

七六八 十一月一日 在米國珍田大使ヨリ
加藤外務大臣宛(電報)

ホノルル港外肥前ノ巡邏監視問題ニ関シ米國務
長官代理ト意見交換ノ件

第三九一号

往電第三七六号ニ関シ十月三十一日國務長官代理ヲ往訪ノ
節往電第三九〇号談話ヲ終リタル後同官ヨリ十月二十六日

リ生スルモノニシテ普通商船ニ対スル hovering トハ同
一視スヘカラスト説キタル処此等ノ事情モ國務長官代理ニ
於テ十分諒トセリ

七六九 十一月二日 在桑港沼野総領事代理ヨリ
加藤外務大臣宛(電報)

米國官憲「ガイエル」乗組士官ヲ抑留セル旨報
告ノ件

第三二四号

閣下宛在「ホノルル」総領事代理電報第五九号ニ関シ本官
カ内密ニ監視ニ当ラシメタル諜報者ノ報告ニヨレハ「ガイ
エル」乗組員ノ四名ハ十一月二日「コレア」号入港スルヤ
米國官憲ノタメ同船上ヨリ直ニ米國軍艦 Cleveland ニ引
致抑留セラレタル趣ナリ
在米大使及在「ホノルル」総領事ニ電報シタリ

七七〇 十一月三日 加藤外務大臣 會談
在本邦米國大使

米國ハ一定期限ヲ附シテ「ガイエル」ノ退去ヲ
要求セルコト、日米新聞無根ノ報道、兩國間誤
解ノ防止除去等ニ関スル件

大正三年十一月三日米國大使來省目下「ホノルル」ニ在ル
独逸軍艦「ガイエル」ノ進退ニ付日本國論漸ク喧シカラ
トスルヲ虞レ本國政府ハ実情問合セ置キタル処今般愈一定
ノ期日ヲ限リテ同艦ノ退去ヲ求メ退去スルコト能ハサルニ
於テハ速ニ其武裝ヲ解除スヘキ旨要求セル趣回報ニ接シタ
リト述ヘタルニ付大臣ハ本件ニ関シテハ在米大使ヨリ報告
アリタルモ愈右ノ通確タル要求アリタルコトハ未タ來報ナ
キニ付其後ノ模様問合ノ為電報ヲ發セントシツツアル所ナ
リキト答ヘラレタリ

次ニ米國大使ハ米國東洋艦隊司令官 Cowles 少將ガ在米
京同國公使館ニ於テ日本ニ對シ不都合ナル演説ヲ為シタル
趣北京電報トシテ日本ノ各新聞ニ掲ケラレ居ル処右ノ如キ
ハ事實無根タルコト勿論ニシテ一寸大使館ニ問合セアラハ
其捏造タルコトヲ答フルコトヲ得タランニト述ヘ或ハ該報
道ハ北京電報ト稱スルモ實ハ内地ニテ故意ニ作製シタルモ

リト答ヘラレタリ

尚米國大使ハ此程關西地方ヘ旅行中日米兩國人ニ就キ日本
ニ於ケル新聞記事ニ付種々意見ヲ交換シタルガ京都ノ原田
同志社長同地ノ Bishop Tucker ノ如キ何レモ日米關係上
甚タ有害ナルモノ多キヲ認メ居リ教育アル者ハ之ニ誤ラル
ルカ如キコトナカルヘキモ下級者ノ間ニ好マシカラサル影
響ヲ及ホスヘキニ付何トカ改善ノ方法ヲ講シタント云フニ
一致シ居タリ自分モ至極同感ナルカ此上共十分兩國誤解ノ
原因ヲ防止廢滅スルコトニ努力シタキ考ナリト述ヘタルニ
付大臣ハ自分ニ於テモ兩國關係ノ改善ニ付テハ出來得ル限
リ力ヲ尽サンコトヲ期スル次第ナリト述ヘラレタリ

七七一 十一月三日 在米國珍田大使ヨリ
加藤外務大臣宛(電報)

「ガイエル」乗員ノ遠距離ヘノ離艦防止ノ措置
ヲ執リタル旨ノ國務省覽書受領ノ件

第三九七号

往電第三九〇号前段ニ関シ國務省ハ「ガイエル」乗組員ノ
遠距離ノ地点ニ向ケ同艦ヲ離ルルコトヲ防キ且又若シ右ノ
如ク同艦ヲ去リタルモノアルヲ發見セハ速カニ其帰艦方ヲ

ノニ非スヤトノ疑ヲ有シ居ルヤニテ日本諸新聞ノ遣リ口ニ
嫌焉タル様ノ口吻アリシニ付大臣ハ該記事ノ誤報タルコト
ハ勿論我ニ於テモ疑フ次第ニ非ス現ニ日置公使ヨリモ全然
無根ナリトノ報告ニ接シ居リ要スルニ二三ノ通信員ガ何レ
カヨリ出テタル材料ニ依リ不用意ニ打電シタルモノト認メ
ラル、処其出所ニ関シテハ独逸筋ノ策略ニ出ツルモノカト
モ思ハル、ニ付其辺探索方既ニ日置公使ヘ電訓シ置キタル
次第ナリト述ヘ珍田大使來電第三九二号紐育「アメリカ
ン」ノ日露防禦同盟條約ニ関スル記事ヲ指摘シ貴國ノ新聞
ニモ随分不都合ナルモノアリト附言セラレタルニ大使ハ同
紙ハ何等有力ナルモノニ非スト述ヘタルニ付大臣ハ有力ニ
ハ非サルヤモ知レサレトモ兎ニ角不都合ナリト述ヘラレタ
ルニ大使ハ I am very sorry ト云ク

米國大使ハ尚語ヲ繼キ斯克兎角日米兩國關係ニ付誤解ノ原
因トナルノ虞アル如キ風説伝ヘラル、ハ誠ニ遺憾ナルガ之
ニ顧ミテモ國際紛争處理條約ハ何卒日本ニ於テモ加入調
印セラル、様希望ニ堪ヘズ既ニ英仏露等ノ諸國モ調印シ一
等國ニテ加入セサルハ日本ト独逸ノミナリト述ヘタルニ付
大臣ハ日米關係ヲ一層親善ニシタキコトハ至極御同感ナリ
國際紛争處理條約ノ件ハ目下帝國政府ニ於テ折角考量中ナ

取計ハスヘキ目的ヲ以テ既ニ措置ヲ執レリ右通牒ストノ十
一月二日附國務省覽書十一月三日接受シタリ

七七二 十一月三日 在米國珍田大使ヨリ
加藤外務大臣宛

在「ホノルル」港独艦「ガイエル」乗組員離艦
ニ関スル件

附屬書一 加藤外務大臣宛珍田大使十月三十日接受ノ
電報要領

二十一月二日附米國國務省ヨリ珍田大使宛覽
書

機密第四七号 (十二月三日接受)

大正三年十一月三日

在米

特命全權大使子爵 珍 田 捨 己(印)

外務大臣男爵 加藤高明 殿

右ニ関スル在「ホノルル」有田總領事代理ヨリ閣下宛往電第
五五号情報ニ関シ貴電第二九八号後段ヲ以テ御訓令ノ趣旨
ニ就テハ為念其後内探ノ結果ニ就キ有田總領事代理ニ電問
同官ヨリ閣下宛第五九号往電本使ヘ転電アリ依ツテ右有田
總領事代理前後來電ヲ參酌シ貴電要領トシテ別紙甲号写ノ

通認メ十月三十一日國務長官代理「ランシング」ヲ往訪ノ上非公式ニ之ヲ手交シ懇談ヲ遂ケタル処之ニ對シ十一月二日附覽書ヲ以テ本日別紙乙号寫ノ通り來照アリ前記十月三十一日會談ノ要領並ニ右來照ノ内容共夫々已ニ及電報置候得共為念右書類寫技ニ及御送付候ニ付御査閱相成度此致申進候 敬具

(附覽書一)

甲 号

加藤外務大臣發珍田大使十月三十日接受ノ電報要領

SUBSTANCE OF A TELEGRAM FROM BARON KATO RECEIVED OCTOBER 30, 1914.

I am advised that several members of the complement of the Geier are under suspicion of having left Honolulu for San Francisco on October 27 by the S.S. Korea.

In the above connection, it must be noted that there is nothing to prevent them from conveying intelligence relating to the military matters of Japan, which would be irreconcilable with the principle of the United States Government, actually prescribing

(附覽書二)

乙 号

十一月二日附米國國務省ヨリ珍田大使宛覽書寫

MEMORANDUM

Referring to the Memorandum left at the Department by the Japanese Ambassador on the 31st ultimo relative to the detention of the members of the complement of the German gunboat GEIER, pending the possibility that she may be interned during the European war, the Department desires to state that steps have been taken with a view to preventing any members of the complement from leaving the vessel for any distant point, and if it is found that any members have so left to facilitate their return to the vessel.

Department of State,

Washington, November 2, 1914.

七十三 十一月十一日 在米國珍田大使ヨリ
加藤外務大臣宛(電報)

「ガイエル」乗組員四名条件附宣誓解放ノ件

第四一五号

limitations on communication between the Hizen and the land as well as on use of the wireless, etc.

Moreover, in case the Geier will have eventually been interned, the question concerning the disposition of the complement of the vessel naturally arises. Having this eventuality in view, it is deemed to be an obligation on the part of the United States, as a neutral, to prevent, in the meantime, any member of the complement from leaving the vessel for any distant point.

Consequently, should the above advice prove to be correct, it is considered proper that steps should be taken to cause these persons to return immediately to their vessel.

Members of the Complement of the Geier who are under Suspicion of Having Left Honolulu for San Francisco on October 27.

As First-Class Passengers:

Egon Pretzel

Walter Sourbeck

As Second-Class Passengers:

Fred Fahrish

Paul Streibel

往電第三九八号後段ニ関シ曩ニ桑港へ來リタル「ガイエル」乗組員四名ハ戦争繼續中同市ヲ去ルヘカラス又中立維持ニ関シテハ米國ノ信義ヲ疑ハシムル如キ何等ノ仕事ヲナスヘカラストノ条件ノ下ニ之ヲ宣誓解放シタル旨十一月十一日國務省ヨリ通牒シ來ヘリ尚貴電第三一〇号ハ十一月十一日延著シタリ

七十四 十一月十四日 在米國珍田大使ヨリ
加藤外務大臣宛(電報)

「ガイエル」及「ロックスン」ヲ米國政府ハ抑

留処分ニ附シタル旨報告ノ件

第四二〇号

往電第四〇九号ニ関シ十一月十四日左ノ通りノ十一月十二日付國務長官來翰ニ接ス

「ホノルル」税関長ヨリ独逸海軍艦船「ガイエル」及「ロックスン」ヲ十一月八日抑留処分ニ付セル旨記載セル電報ニ接シタル趣大藏長官ヨリノ來書アリ右通告スルノ榮譽ヲ有ス

七七五 十一月十四日 在米國珍田大使ヨリ
加藤外務大臣宛

独逸軍艦「ガイエル」抑留処分ニ関スル件

附屬書一 十月二十七日附米國國務長官 理ヨリ在米
國珍田大使宛書翰写

二 十月二十八日附在米國珍田大使ヨリ米國
國務長官代理宛書翰写

三 十月三十日附米國國務長官代理ヨリ在米國
珍田大使宛書翰写

四 十一月十二日附米國國務長官ヨリ在米國珍
田大使宛書翰写

機密第四九号

(十一月二十三日接受)

大正三年十一月十四日

在米

特命全權大使子爵 珍 田 捨 己 (印)

外務大臣男爵 加藤高明 殿

客月十五日「ホノルル」港入港ノ独逸軍艦 Geier 号及帝國軍艦肥前ノ行動ニ関シ同月二十六日國務長官代理ト本使トノ間ニ非公式ニ開談シタル以来本日右「ガイエル」号抑留処分ニ関スル國務長官通告ニ接セル迄ノ經過ニ就テノ隨時電稟ニ及ヒ置キタル通ナル処其間國務長官代理及國務長官ト本使トノ間ニ往復シタル非公式書翰及公文各写為記録

hope of avoiding a formal communication to your Government on the subject, and of averting a situation which might assume a serious aspect.

I am, my dear Mr. Ambassador,

Very sincerely yours,

(Signed) Robert Lansing.

His Excellency

Viscount Suteimi Chinda,

Ambassador of Japan.

(附屬書II)

十月二十八日付在米國珍田大使ヨリ米國國務長官代理宛書翰写

October 28, 1914.

My dear Mr. Lansing:

Adverting to our conversation on October 26 and to your unofficial letter of October 27, relating to the German man-of-war Geier and the Japanese battleship Hizen, I wish to inform you that the purport of our conversation as well as the contents of your letter has been referred to the home government.

In the meantime, Baron Kato has sent me telegraphic instructions, which apparently crossed my

致ニ及御送付候 敬具

(附屬書I)

十月二十七日付米國國務長官代理ヨリ在米國珍田大使宛書翰写

(Rec'd. Oct. 27, 1914)

Department of State
Washington

October 27, 1914.

My dear Mr. Ambassador:

With reference to our conversation of yesterday in relation to the Japanese battleship HIZEN off the port of Honolulu, I wish to call your attention to further information which had been received in regard to the operations of this ship and its launches in that locality. I am advised that the ship's steam launches have been cruising in the harbor of Honolulu without lights Friday, Saturday and Sunday night, and that the Commander of the battleship appears disinclined to observe the neutrality of the port.

I am calling your attention to the improper conduct of the HIZEN in this informal manner, in the

cables, the substance of which I beg to enclose herewith. With regard to it, I should be greatly obliged, if you would give me further information concerning your intention as regards the disposition of the Geier.

I am, my dear Mr. Lansing,

Sincerely yours,

Honorable Robert Lansing,

Acting Secretary of State.

(別 紙)

加藤外務大臣發珍田大使十月二十七日接受ノ電報大要

SUBSTANCE OF A TELEGRAM FROM

BARON KATO, RECEIVED

OCTOBER 27, 1914.

I am advised that the German man-of-war Geier entered the port of Honolulu on the forenoon of October 15 and commenced repairs on the forenoon of the 17th and that there is as yet no prospect of her leaving the port.

The Imperial Government, while implicitly relying on the strict maintenance of neutrality on the part of the United States Government, are constrained

to view with some uneasiness the fact that the above man-of-war is apparently showing little sign of progress on repairs and of leaving the port, even after the elapse of two weeks.

On the one hand, the Imperial Government are inclined to question whether such a state of things could fairly be reconciled with the spirit of Article 17 of the Hague Convention Concerning the Rights and Duties of Neutral Powers in Naval War, and, on the other, are compelled to point out the circumstance that the said man-of-war, while having not the slightest apprehension of danger so long as she stays in the port of Honolulu, is a constant source of uneasiness and danger to the Japanese merchant vessels on the trade routes between Japan and the United States.

In the circumstances, you will approach the United States Government informally, and ascertain and report as to their intention as regards the disposition of the Geier.

(附屬書三)

十月三十日付米国國務長官代理ヨリ在米国珍田大使宛書翰
写

(附屬書四)

十一月十二日付米国國務長官ヨリ在米国珍田大使宛書翰
(Rec'd. Nov. 14, 1914)

Department of State
Washington

November 12, 1914.

No. 91.

Excellency:

I have the honor to advise you of the receipt of a letter from the Secretary of the Treasury, stating that a telegram has been received from the Collector of Customs at Honolulu, wherein he reports that, on November 8 last, the German naval vessels GEIER and LOCKSUN were interned there.

Accept, Excellency, the renewed assurances of my highest consideration.

(Signed) W. J. Bryan.

His Excellency
Viscount Suteimi Chinda,
Japanese Ambassador.

~~~~~

(Rec'd. Oct. 30. 1914)

Department of State  
Washington

October 30, 1914.

My dear Mr. Ambassador:

In reply to your letter of the 28th instant, in regard to the German gunboat GEIER, now undergoing repairs at Honolulu, I would advise you that the Imperial German Ambassador in this capital has been informed of this Government's intention to fix a definite period within which repairs to this vessel should be completed, and that if it is found impossible to complete the repairs within the period set, the United States will be obliged to insist that the gunboat be interned during the present war. Instructions have been issued to the United States officers to inform the Captain of the GEIER in this same sense.

I am, my dear Mr. Ambassador,  
Very sincerely yours,

(Signed) Robert Lansing.

His Excellency  
Viscount Suteimi Chinda,  
Ambassador of Japan.

ナホ 十一月十四日 在米国珍田大使ヨリ  
加藤外務大臣宛

独逸軍艦「ガイエル」離艦乗組員処分ニ関ス

ル件

附屬書 十一月十一日附米国國務長官代理ヨリ在米国  
珍田大使宛書翰

機密第五〇号 (十二月二十三日接受)

大正三年十一月十四日

在米

特命全權大使子爵 珍 田 捨 己 (印)

外務大臣男爵 加藤高明 殿

右ニ関シテハ已ニ本月十一日往電第四一五号ヲ以テ不取敢  
電報ニ及ビ置キタル処為記録右ニ関スル國務長官米照斂ニ  
及御送付候但シ同来照ニ「十月三十日附 國務省 非公式書  
翰」ト言ヘルハ別信機密第四七号往信添付ノ同日附國務長  
官代理来翰ヲ指スモノニ有之右為念申添候 敬具

(附屬書)

十一月十一日付米国國務長官代理ヨリ在米国珍田大使宛書  
翰写

Department of State  
Washington

November 11, 1914.

My dear Mr. Ambassador:

Referring to the Department's informal note to you of October 30th, regarding the internment of the German cruiser GEIER at Honolulu, I would advise you that the four members of the GEIER'S complement which sailed for San Francisco, have been paroled not to leave that city and on condition that they do not perform any work, which would

call in question the good faith of the United States in the maintenance of its neutrality during the present war.

I am, my dear Mr. Ambassador,  
Very sincerely yours,

(Signed) Robert Lansing.

His Excellency  
Viscount Suteiri Chinda,  
Ambassador of Japan.

~~~~~

日本外交文書

大正三年
第三冊 終

附錄 日本外交文書 大正三年 第三冊 日附索引